

わくわく〜く

Vol.
24
2024年3月

障害のある人の

グループホームって
どんなところ？

自家製野菜たっぷり「空と大地と
みんなにやさしいまち調布」六和精工株式会社



調布市福祉作業所等連絡会

調布市福祉作業所等連絡会 加盟団体

(N)=NPO法人、(福)=社会福祉法人、(一社)=一般社団法人、(株)=株式会社、(有)=有限会社、(合)合同会社



障害のある人の仕事や活動の場

- (福)新の会
はあと・ふる・えりあ:042-490-8625
ペーカリー&カフェ「ふぁんふぁ〜れ」:042-490-8637
- (N)エクセルシア
リサイクルショップ 不思議屋:042-489-3754
- (福)大泉旭出学園
旭出調布福祉作業所:042-485-5885
- (福)くすのき会
調布くすの木作業所:042-486-9129
シェア:042-481-1157
結の里:042-442-2023
- (N)クッキングハウス会
クッキングスター:042-498-5177
レストラン クッキングハウス:042-488-6369
ティールーム クッキングハウス:042-484-4103
- (N)高次脳機能障がい者活動センター調布ドリーム
調布ドリーム/リサイクルショップ夢市:042-444-3068
- (福)新樹会
創造農園:03-5314-7081
カフェ「空と大地と」:03-5314-7082
創造生活:03-5384-7066
- (福)巢立ち会/こひつじ舎:042-488-4433
- (N)青少年の居場所Kiitos
障害者生活訓練事業所Porta:042-444-6254
- (N)爽々苑
爽々苑:042-480-8294
爽々苑やわらぎの家:042-481-6262
- (N)だいち
だいち調布事業所:03-6279-6482
だいち調布第2事業所:042-426-9555
だいち調布第3事業所:03-5315-5981
- (福)調布市社会福祉協議会
調布市希望の家 本場:042-481-7700
調布市希望の家 分場:03-3305-7737
希望の家深大寺:042-426-8577
障害者地域活動支援センター ドルチェ:042-490-6675
- (福)調布市社会福祉事業団
すまいる 本場/フレッシュベーカーリーすまいる:042-481-7723
すまいる 分室/ペーカリー&カフェ「ほっとれ〜」:042-426-9481
デイセンターまなびや:042-442-9552
そよかぜ:042-481-7663
ちょうふだぞう:042-487-4552
- (N)調布心身障害児・者親の会
びいす:042-230-9776
下石原びいす:042-480-5775
- (福)調布を耕す会
しごと場大好き:042-486-1022
しごと場大好き国領:042-444-3733
カフェ大好き:042-481-3933
- (N)羽ばたく会
めじろ作業所:042-443-1633
カフェギャラリー「さえざり」:042-444-8818



障害のある子どもの療育と放課後・余暇活動の場

- (N)ひなげしの会
第1ポピーの家:042-483-4230
第2ポピーの家:042-483-7090
第3ポピーの家:042-426-7506
- (N)ファーストステップ
ファーストステップ(就労)/Gallery&Café Pedalo:042-426-4223
ファーストステップ(生活):042-444-1573
- (N)Mito Project / natural meal & cafe キナリヤ:03-6676-9627
- (N)ゆうゆうくらぶ/ゆうわ〜く:042-430-0844
- (N)らぶらんど/らぶらんど調布:050-3578-1395
- (N)リフレッシュ工房/リフレッシュ工房:042-486-4531
- (N)わかばの会
わかば事業所 042-486-3174
わかば第一事業所 042-484-1360
わかば第二事業所 042-488-2870
- (N)空の翼/ウイング調布:042-426-7748
- (株)シエズ/放課後等デイサービス たんぼぼ:042-444-0471
- (一社)生活支援ネット
アーリーバード:042-446-2550
アーリーバード柴崎:042-499-6030
- (合)チル・リブ/チル・リブ西調布ルーム:042-452-8501
- (福)調布市社会福祉協議会
放課後等デイサービス びっころ:042-490-6675
- (N)ちょうふの風/ちょうふの風:042-444-5514
- (N)なないろの会
クレヨンキッズ:042-490-3933
れいんぼー:042-499-6777
- (N)にこにこの会
にこにこキッズルーム:042-499-5660
放課後等デイサービスふくふく:042-444-7807
- (株)HITOWAキッズライフ/アイビーキッズ布田:042-444-7182
- (株)ファミリーホーム/ドリームボックス下石原:042-444-7155
- (N)ふみ月の会
ふみ月チャレンジ染地:042-486-9901
- (株)ベイフォワード
わかば仙川店:03-5969-9047
わかば西調布店:042-426-7982
- (N)ポコポコ・ホッピング
ポコポコ・ホッピング神代団地:042-483-1114
ポコポコ・ホッピング富士見町:042-486-5922

その他

- (福)調布市社会福祉事業団
調布市立ゆずのき学童クラブ:042-444-6644
なごみ:042-481-7371
- (N)ふみ月の会/ふみ月の家:042-446-0633

調布市福祉作業所等連絡会ガイドブック
わくわく〜く

わくわく〜く24号
2024年3月発行
発行 調布市福祉作業所等連絡会
調布市布田2-26-8-101
042-481-3201
fuku-renraku@tbz.t-com.ne.jp

編集 NPO法人ちょうふ子育てネットワーク・ちょこネット
デザイン 古田 裕(FULL_DESIGN)
写真 楠 聖子

調布市福祉作業所等連絡会
ホームページ





障害のある人の

グループホームって どんなところ？

障害者グループホームとは、障害のある人が専任のスタッフに生活や健康管理面のサポートを受けながら共同で暮らす住まいのこと。調布市内に53カ所あるグループホームの一つ「みつば」に伺いました。

地域で安心して暮らしている
自立した暮らしができる

夕方、「ただいま」と仕事を終え帰宅したメンバーを「おかえりなさい、お疲れさま」と、笑顔のスタッフが出迎えます。「NPO法人わかばの会」が運営するグループホーム「みつば」では、現在9名(体験1名を含む)が生活しています。2階建ての建物内にはメンバー一人一人の個室があり、1階には個室のほかキッチンとみんなが集まるリビング、お風呂とトイレ、洗濯室などがあり共同で使っています。

グループホーム「みつば」の一日

仕事から帰ったメンバーは、まずリビングでスタッフにその日の出来事や体調を報告。使ったお金を計算し家計簿(小遣い帳)をつけるのも大事な日課です。その後夕食までの間に交替でお風呂に入り、洗濯や翌日の準備などを自分で行います。必要に応じてスタッフが声掛けしたり、手伝うことも。18時からスタッフが作ってくれた夕食をみんなで食べ、各自お皿を洗って片付け。夕食後の自由時間は自室でくつろいだり、リビングで他のメンバーとゲーム

をしたり、テレビを見たり…思い思いに過ごして22時に就寝します。朝は6時ごろ、それぞれの時間で起床。その後朝食、身支度をして、それぞれ作業所など日中活動の場へ徒歩や送迎車で出かけて行きます。



パソコンが好きという守屋俊平さんのお部屋。黒を基調にした落ち着いたインテリア。



有川幸志さんのお部屋。お気に入りのキャラクターグッズを置いた居心地いい空間。

自分だけの場所があるから
仲間との時間も楽しい

居室は6畳フローリングの完全個室、家具などインテリアは本人の好みのものをレイアウト。趣味のグッズやパソコンなどを置き、それぞれが「自分の城」で快適に過ごしている様子がうかがえます。「みつば」は「とても居心地がいいです」と話すのは、入居して5年目という有川幸志さん。「仲間や職員さんとおしゃべりすることや、誕生日会などいろんなイベントも楽しいです」

わかばの会が運営する他のグループホームとの交流や、町内会など地域の行事に参加するのも楽しみの一つだそうです。



居室をつなぐ廊下はゆったり。火災報知機やスプリンクラーも万全。



お風呂とトイレは各階2カ所、車いすや介助も想定した十分な広さ。

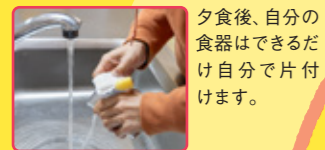


趣味が多彩でおしゃれ好きの有川さん。お気に入りの帽子コレクションやプレートなど素敵にディスプレイ。

スタッフ交代

その日のメンバーの様子、健康状態などを夜勤スタッフに引継ぎます。

就寝前の準備や服薬の支援、就寝中の見守りなどの夜間対応を。仮眠をとった後、起床や朝食の準備。



夕食後、自分の食器はできるだけ自分で片付けます。



食後はリビングや自室で思い思いにくつろぎます。



夕食の準備。野菜多めの栄養バランスを考えた献立。

グループホーム「みつば」の一日 (平日)

22:00 就寝

6:00 起床

7:00 朝食

8:00 出勤

スタッフ交代

起床後のバイタルチェックや朝食の世話、仕事先への送り出し終え、夜勤スタッフの勤務は朝9時まで。

日勤スタッフの勤務は12時から。メンバーが帰宅するまでの間、清掃や調理など受け入れの準備をします。

18:00 夕食



メンバー帰宅後、スタッフにその日の報告や相談。



16:00 帰宅

休日の過ごし方

土・日などの休みには家族のいる実家に帰り、泊ってくる人もいます。ヘルパーさんと外出する人、自室で趣味を楽しむ人など思い思いに過ごします。ハイキングなどホームで企画したレクリエーションに参加することもあります。

※紹介したスケジュール例はグループホーム「みつば」のもので、スタッフの勤務時間や支援内容などは施設によって違います。

障害のある人の

グループホームって どんなところ？



「みつば」支援スタッフの小林茂信さんと斉藤玲奈さん。

障害のある方と地域の「橋渡し」を
「わかばの会」統括施設長の長尾さん、「みつば」支援スタッフの小林さんと斉藤さんにお話を伺いました。
——スタッフのお仕事内容を教えてください。

小林さん 支援スタッフとして食事の用意や掃除、身の回りの手伝いなどのほか、服薬や金銭管理、必要に応じて通院などに付き添うこともあります。食事の調理は専任のスタッフさんをお願いしています。個別の支援計画の作成、福祉サービス利用の調整や手続きの支援など、生活の質に直結する部分はサービス管理者などと相談しチームで対応。日中活動だけでは見え

ないその方のいろいろな面を知り、関係を築けるのがこの仕事の奥深さかなと思います。その方の成長や変化を見ることが出来るのは楽しみです、自分の仕事の幅が広がる実感があります。
斉藤さん ただ生活するだけでなく、日常を豊かにする体験、集団だからこそ味わえるイベントなども大切にしています。月に一回の誕生会ではメンバー同士で話し合っ、みんなで買い出しに行ったり、豆まきやクリスマスといった季節イベントなども一緒に企画します。
——地域との関係をとても大切にされているそうですね？

長尾さん まだまだ社会的には十分に理解が浸透していない「障害」について、地域の方に知っていただき、メンバーと地域との橋渡しをすることもスタッフの大切な仕事です。開設当初は不安に感じておられた地域住民の方々も、毎日の通勤や散歩時にあいさつを交わす中で、自然と関係が築けてきました。自治会にも加入し、地域の行事や活動にはメンバーとスタッフが、できるだけ全員で参加するようにしています。コロナ禍前は、地域運動会などにも参加していました。

もちろん地域の方と全くトラブルが無いというわけではありませんが、誠実に対応することで逆に理解が深まるきっかけになることもあります。
障害者グループホームを受け入れる理解のある地域であるということは、誰にとっても住みやすい安全な街だということだと思います。そんな街の土壌を耕すのも、私たちの役割だと考えています。



毎月の楽しみ、誕生会。お菓子はリクエストで決めます。(写真提供：グループホームみつば)



「みつば」外観。布田一丁目の閑静な住宅街にあります。



調布市内のグループホーム



障害者グループホームとは、障害のある方が福祉サービス「共同生活援助」を受けて生活する住まいで、調布市内に53カ所(対象の内訳:知的障害28、精神障害26、うち障害重複1)あります。住居形態は一戸建てやアパート、マンションなどさまざま。男女別に専用のところが多いです。また、調布市には都内では数少ない体験型のグループホーム「すてっぷ」「ちゃれんじ」(いずれも調布市社会福祉事業団が運営)があります。障害者グループホームを利用したい、開設したい、などの相談は調布市福祉健康部障害福祉課で受け付けています。



「火の用心！」自治会の歳末夜警パトロールに参加。(写真提供：グループホームみつば)

逸品誕生 ストーリー vol.7

自家製野菜使用のこだわりの味 キッシュランチボックス



価格は税込み700円。(キッシュ単体は500円)

キッシュが映える付け合わせや盛り付けは、メンバーで話し合い
「自慢の味をお店以外でも食べてもらいたいと考えたのがテイクアウトのランチボックス。主役のキッシュは定番と季節のキッシュの2種類から選べ、サイドは自家製野菜の特製ドレッシングサラダとガリバター醤油パスタ。メンバーと「どんなものが入っていたらうれしいかな」と一緒に話し合い、開発しました。お客さまに喜んでいただくのと同時に、私たちが特に大切にしているのは働くメンバーのモチベーション。気持ちが上がるとインテリアやメニュー、箱詰めをしながら作り手も楽しめる包装にもこだわっています。運営母体の『創造農園』では精神疾患を持つ方のためのさまざまなお仕事を提供していますが、中でもカフェは地域との交流や人とのつながりが持



2種類から選べるキッシュ。こちらは定番のアンチョビトマト味。



店長の山之内光さん。前職はラーメン屋という食のプロならではのこだわりが随所に。

てる大切な場。メンバー一人一人ができることややりたいことを、ペースに合わせて楽しんで働くことができて、地域の方にも「また来てみたい」と思っていただけ、誰にとっても心地よい居場所でありたいと思っています」

カフェ 「空と大地と」

わくわく編集部が見つけた福祉作業所メイドの逸品をシリーズで紹介。プロ監修のカフェメニューが人気の「空と大地と」に伺いました。



基本情報

空と大地と

調布市東つつじヶ丘2-27-1
03-5314-7082



店頭販売の「創造農園」採れたて野菜はご近所の方に人気。



パティシエ監修の焼き菓子。月曜と金曜は焼き立てアップルパイも。

「空と大地と」営業時間:10:30 ~ 15:00(ランチラストオーダー 14:00)
営業日:日曜休業(不定期で定休日があります。)※季節や収穫状況により自家製以外の野菜を使用する場合があります。

逸品に出会える場所

福祉の現場で働く人たちに、「うちの事業所はココが熱い！」魅力ややりがいインタビュー！

関わりを重ね思いが通じ合う喜び

デイセンターまなびや 郡 高之さん

スタッフの層が厚く
支え学び合える職場

雑誌編集や塾講師などを経て全くゼロから福祉の仕事に飛び込んだという郡さん。「それまで自分が漠然と持っていた真面目で暗いという福祉のイメージを覆す、実に明るくオープンな職場で、分からないことはすぐ聞けるざっくばらんなムードがありがたかったです。重度障害の方だからと身構えることなく、自然体でメンバーさんと関係を築くことができたのも、さまざまな専門性を持つ方や

経験の長い方など、多くの先輩スタッフのバックアップがあつてこそだったと思います。ご家族の方との関わり方では、自分の塾講師の経験が少しは役立っているかもしれないかもしれません。言葉でのコミュニケーションが難しい方でも、関わりを重ねる中でその方ならではの表現の仕方や感情の動きが見えてきたり、気持ちを通じ合った時のなんともいえない感動が、やりがいでもあります。日々試行錯誤ですが、メンバーそれぞれの個性に寄り添い、笑顔を引き出せる関わりをしていきたいです」

弱みより強みにフォーカス
視野が広がる支援を

前職は役者さんという目崎さん。「障害をテーマにした芝居を演じるにあたり、役作りの勉強になればと考えたのがこの仕事に就いたきっかけ。いつの間にかはまってしまい早10年、今や天職と思っています。うちはいい意味でオンオフをあまりはつきりさせず、その方のやりたいことや意思を第一に考える事業所。就労移行支援とB型作業所の複合型なので、今の状態に合わせた仕事の仕方が選べるのも強みです。若いメンバーが多いこともあり、アニメ

「いかに楽しく通ってもらうか」を追求

だいち調布第3事業所
目崎 祐介さん

やゲームなどの共通の趣味の雑談などを通し、楽しく通える居場所という側面を大切にしています。ひきこもりや人間関係でつまづいた経験などから自己評価が低くなっている方も多いのですが、弱みにフォーカスせず「劣等感になっっている部分も見方を変えれば強みになる」「頑張りすぎなくていい」「いろんな人がいてよくて誰しも長所も短所もある」など視野が広がり、気持ちがあんなるような関わりを心がけています」



一人一人の状態に合わせて理学療法士、作業療法士が立てた計画に従いリハビリを行います。



デイセンターまなびや
調布市社会福祉事業団が運営する身体障害と知的障害を併せもつ人の通所施設。一人一人の状態に合わせて支援や介助、日中活動、機能訓練や入浴サービスを実施。
調布市西町290-47
042-442-9552



メンバーのモチベーションにつながるよう内容も工夫。この日の作業はゲーム機の分解修理。



だいち調布第3事業所
特定非営利活動法人だいちが運営する就労継続支援B型と就労移行支援の多機能型事業所。「その人らしくどう生きるか」をテーマに様々な活動を提供。
調布市東つつじヶ丘2-27-4 新井ビル201
03-5315-5981

調布市作業所等連絡会に所属する福祉事業所では、ボランティアや職員の募集を行っている施設もあります。詳細は各事業所にお問い合わせください(本誌裏表紙に一覧)

みんなにやさしいまち ちょうふ

「障害のある人が利用しやすい」場所は誰にとってもやさしい場所。障害がある人に配慮がある施設やお店をシリーズで紹介しします



田中裕美さん(右)と松井君子さん(左)。

**安定、継続した発注で
作業所の工賃向上に貢献**
染地 六和精工株式会社

調布をはじめ全国10力以上の作業所に仕事を発注

明治38年に日本橋で創業、昭和39年染地に移転して60年という六和精工は、調布のほか茨城県にも工場を持つ、金属プレス加工の老舗企業です。調布をはじめ全国10力以上の福祉作業所に、主力商品である鞆用金具などの組立作業を発注することで、作業所の工賃向上に長年多大な貢献をしている会社でもあります。事務の田中裕美さん、社歴30年以上と言うベテラン社員松井君子さんにお話を伺いました。

「地域で働く選択肢が少ない方、障害のある方などを積極的に雇用し

たり、仕事ををお願いしているのは、先代代の社長から続くわが社の方針。こちらが忙しい時だけというのではなく、継続してコンスタントにお願いすることが大切と考えています。また、地域の子育て中のお母さんたちにはパートとして活躍してもらっており、お子さんの体調不良や学校行事のある時にはお休みが取れるよう配慮もしています」(松井さん)

「作業所の皆さんは、単調な作業も確実に丁寧。職員さんが仕上がりにまでしっかり確認してくれるので、安心してお願いできます。発注先の作業所さんが得意な作業にできるだけ合わせたお仕事を切り出してお願いしています」(田中さん)



福祉作業所への発注作業の一例、ヘルメットの顎ひも留め具の組立。



組立の様子。コロナ禍でも途切れず発注できるように努めたそう。



パートの皆さん。子育て中でも働きやすい環境からは人を大切にする会社の姿勢が伝わります。



六和精工株式会社
東京都調布市染地2-29-6
042-484-1437

Topics

新規加入事業所紹介

**NPO法人
青少年の居場所 Kiitos
障害者生活訓練事業所
Porta(ポルタ)**

調布市菊野台1-52-4
三高家ビル2-C号室
042-444-6254

**災害時の障害児・者支援のために
「ちょうふ災害福祉ネットワーク」発足**

大規模災害時に福祉事業所間で連携、障害児・者の支援を目的とした「ちょうふ災害福祉ネットワーク」が、令和5年7月28日の設立総会を経て発足しました。令和6年3月現在、調布市福祉作業所等連絡会に属する事業所を中心に29団体が加盟しています。

連携は、参加事業所それぞれがスマートフォンアプリに情報を投稿することで、全加盟団体が相互に共有できる仕組みを使用します。調布市もメンバーに入っているため、災害時に必要な避難所などの情報も随時受け取ることが可能。参加事業者は相互に協力し合いながら障害児・者の避難状況を共有したり、被災後の協力(人的支援、備品の融通等)を行うなど、多様な支援につなげていく考えです。

令和5年度には、台風等による水害を想定した情報共有の訓練、発災時に福祉避難所となる施設にある備蓄品の見学などを実施。ゆくゆくは震災時にも対応できるよう、参加事業者による協議や合同訓練を重ねていく予定です。そして今後はさらに近隣地域住民や教育機関などとも連携し、ネットワークを広げていきたいと考えています。